

参考資料編

1. アンケート調査票

物流効率化を目指した物流業務の受託サービスに関する調査
アンケート調査票

貴社の概要についてご記入をお願い致します。該当する番号に○印を付けて下さい。

貴社名		
所在地	〒	
ご回答者氏名		
所属部課名		
ご連絡先	Tel () / Fax () e-mail アドレス： ホームページ URL：	
資本金	1. ～ 5 千万円未満 2. ～ 1 億円未満 3. ～ 3 億円未満 4. ～ 5 億円未満 5. ～ 10 億円未満 6. 100 億円未満 7. 100 億円以上	
従業員数 (パート、アルバイト除く)	1. ～ 30 人未満 2. ～ 50 人未満 3. ～ 100 人未満 4. ～ 300 人未満 5. ～ 500 人未満 6. 500 人以上	
所管面積 (容積) (倉庫事業者)	1 類～ 3 類倉庫 m ²	冷蔵・冷凍倉庫 m ³
保有車両台数 (備車除く)	1. ～ 10 台未満 2. ～ 30 台未満 3. ～ 50 台未満 4. ～ 100 台未満 5. ～ 200 台未満 6. 200 台以上	
年間売上高 (単体) (直近の年度のもの)	全事業の売上高 億円	うち倉庫業売上高 億円 うち利用運送業売上高 億円
拠点数	自社所有 ヶ所	リース・賃貸 ヶ所
事業内容 (該当する番号全てに○印を付けて下さい)	1. 倉庫業 2. 貨物自動車運送事業 3. 港湾運送事業 4. 通関業 5. 外航利用運送事業 6. 内航利用運送事業 7. 航空利用運送事業 8. 鉄道利用運送事業 9. 貨物運送取扱事業 10. 物流コンサルティング業 11. その他 (具体的に)	
親会社の業種および外販比率 (貴社が物流子会社の場合にのみご記入下さい)	親会社の業種 1. 製造業 2. 卸売業 3. 商社 4. 小売業 5. その他 (具体的に)	外販比率 (親会社以外への売上高の割合) 約 %

※平成 15 年 9 月現在の状況をご記入下さい。

問1. 現在、貴社の物流業務の受託状況はどのような段階にありますか。事例によって複数の段階に該当する場合は、もっとも先進的な事例、ケースについて該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

なお、貴社が物流子会社の場合は、親会社からの受託事例についてご記入下さい。

(1) 受託のレベル

1. 個別の作業（輸送・保管・梱包等）レベルでの受託
（約款等に基づく標準的なサービス：)
（付加価値サービス：)
2. 物流管理・運営（物流センター運営や車両運行管理）の肩代わり
（具体的に肩代わりしている業務：)
3. 経営レベルまで踏み込んだ改善提案（物流コスト分析やプランニング）
（具体的な提案内容：)

(2) 受託範囲

1. 特定の拠点もしくは領域（例えば保管、輸送のみ）に限った部分的な受託
（具体的な受託範囲：)
2. 複数拠点により広域をカバーもしくは複数の機能を担う受託
（具体的な受託範囲：)
3. 荷主企業の物流機能全体または物流以外の機能を含む包括的な受託
（物流以外の機能：)

(3) 契約形態について

1. 取扱数量をベースとする契約
2. 特定顧客の物流改善を目的とした長期的・固定的な契約
3. 物流コスト削減効果の配分やリスクの分担がなされる契約

(4) 受託における全体的なシステムの提案者

：受託にあたり物流の全体的な仕組みを提案するのは誰ですか。

1. 荷主企業が行う
2. 物流事業者（貴社）が行う
3. 第三者（物流コンサルタント、情報システム会社等）も交えた協議による

(5) 情報システム：導入しているシステムの種類・機能

1. 倉庫内オペレーションもしくは輸配送の効率化を図る必要最低限のWMSやTMS
2. 複数拠点の一元管理や求車求貨システム等のより高度なWMSやTMS
3. ロジスティクスにとどまらずサプライチェーン全体を処理・管理するシステム

※WMS=Warehouse Management System（倉庫管理システム）

※TMS=Transport Management System（輸配送管理システム）

※ロジスティクスは単一企業のなかでの物流効率化であるのに対して、サプライチェーンマネジメントは一企業にとどまらず、商品の流れに関わる諸企業全体を包摂して物流の統合化を図ろうとするものです。

(6) 情報システム：電子的情報交換の状況

1. 自社・グループ企業の拠点との間で電子的情報交換が可能
2. 他の倉庫事業者や輸送事業者との電子的情報交換が可能（他の倉庫事業者や輸送事業者との間で貨物動態情報やスペースの空き情報、在庫確認等ができる）
3. 顧客企業との電子的情報交換が可能（顧客企業が直接アクセスして在庫情報の確認等ができる）

※受託のレベルや3PLのステップについては、同封の「ご記入にあたっての留意事項」ならびに「別紙」に整理しておりますので、ご参照のうえご記入下さい。

問2は、貴社が物流子会社の場合にのみお伺いします。それ以外の方は問3へお進み下さい。

問2. 親会社以外の荷主企業からの受託事例があれば、問1と同じようにご記入下さい。

(1) 受託のレベル

1. 個別の作業（輸送・保管・梱包等）レベルでの受託
（約款等に基づく標準的なサービス：)
（付加価値サービス：)
2. 物流管理・運営（物流センター運営や車両運行管理）の肩代わり
（具体的に肩代わりしている業務：)
3. 経営レベルまで踏み込んだ改善提案（物流コスト分析やプランニング）
（具体的な提案内容：)

(2) 受託範囲

1. 特定の拠点もしくは領域（例えば保管、輸送のみ）に限った部分的な受託
（具体的な受託範囲：)
2. 複数拠点により広域をカバーもしくは複数の機能を担う受託
（具体的な受託範囲：)
3. 荷主企業の物流機能全体または物流以外の機能を含む包括的な受託
（物流以外の機能：)

(3) 契約形態について

1. 取扱数量をベースとする契約
2. 特定顧客の物流改善を目的とした長期的・固定的な契約
3. 物流コスト削減効果の配分やリスクの分担がなされる契約

(4) 受託における全体的なシステムの提案者

: 受託にあたり物流の全体的な仕組みを提案するのは誰ですか。

1. 荷主企業が行う
2. 物流事業者（貴社）が行う
3. 第三者（物流コンサルタント、情報システム会社等）も交えた協議による

(5) 情報システム：導入しているシステムの種類・機能

1. 倉庫内オペレーションもしくは輸配送の効率化を図る必要最低限のWMSやTMS
2. 複数拠点の一元管理や求車求貨システム等のより高度なWMSやTMS
3. ロジスティクスにとどまらずサプライチェーン全体を処理・管理するシステム

※WMS=Warehouse Management System（倉庫管理システム）

※TMS=Transport Management System（輸配送管理システム）

※ロジスティクスは単一企業のなかでの物流効率化であるのに対して、サプライチェーンマネジメントは一企業にとどまらず、商品の流れに関わる諸企業全体を包摂して物流の統合化を図ろうとするものです。

(6) 情報システム：電子的情報交換の状況

1. 自社・グループ企業の拠点との間で電子的情報交換が可能
2. 他の倉庫事業者や輸送事業者との電子的情報交換が可能（他の倉庫事業者や輸送事業者との間で貨物動態情報やスペースの空き情報、在庫確認等ができる）
3. 顧客企業との電子的情報交換が可能（顧客企業が直接アクセスして在庫情報の確認等ができる）

問3. 荷主企業の間で物流業務の外部委託（アウトソーシング）が広まるなかで、荷主企業のロジスティクスを支援するサービスとして、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）という概念が普及しています。以下では、この3PLについてお伺いします。

(1) 貴社では、現在下記のようなサービスを行っていますか。該当する番号全てに○印を付けて下さい。

1. 単一業務だけではなく、在庫管理、流通加工などを含む幅広いサービス
2. 単なる作業の受託ではなく、提案・コンサルティング型のサービス
3. 定型的なサービスではなく、特定荷主のための専属性の強いサービス
4. 専門的な機能をもった付加価値の高いサービス
5. 顧客企業の物流コストの低減を目的とするサービス
6. 顧客企業の物流改善・効率化を目的とするサービス
7. 情報システムを駆使した高度なサービス
8. 国際複合一貫輸送サービス*

※紹介による単なる手配業務等は除きます。

(2) 貴社では、3PLサービスはどのような点で従来の物流サービスとは異なると考えますか。該当する番号に○印を付けて下さい(上位3つまで)。

1. 単一業務だけではなく、在庫管理、流通加工など幅広いサービスを提供している
2. 単なる作業の受託ではなく、提案・コンサルティング型のサービスである
3. 定型的なサービスではなく、特定荷主のための専属性の強いサービスである
4. 専門的な機能をもって付加価値の高いサービスを行っている
5. 顧客企業の物流コストの低減を目的とするサービスである
6. 顧客企業の物流改善・効率化を目的とするサービスである
7. 情報システムを駆使して高度なサービスを提供している
8. 国際輸送分野も含めたドア・ツー・ドアの一貫輸送サービスを提供している
9. これまで行ってきたサービスと特に違いはない
10. 従来とのサービスとの違いはよくわからない
11. その他 ()

問4. 貴社における3PLの実施状況についてお伺いします。

(1) 問3のご回答結果を踏まえると、貴社では3PLを実施していると考えられますか。該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

1. すでに実施している →問4(2)へ
2. 現在は実施していないが、今後積極的に実施する意向がある →問5へ
3. 現在は実施していないが、状況次第では実施する意向がある →問5へ
4. 現在実施していないし、今後も行うつもりはない →問16へ

(2) 貴社ではこれまでどのような業種・業態の荷主企業から3PL業務を受託していますか。また、3PLとして具体的にどのような業務を受託していますか。太枠回答欄内にご記入下さい。

業種・業態	受託 件数	3PLとして受託した業務内容
(記入例) 大手スーパー	件	顧客企業の物流センターの建設 店舗向け配送業務
	件	
	件	
	件	

以降の設問は、貴社における代表的な3PLの事例もしくは将来における参入形態を念頭においてご回答下さい。

問5. 貴社はどのような形態で3PLビジネスに参入しましたか。また、貴社にとって可能性が高いのはどの形態ですか。該当する番号に全て○印を付けて下さい。

1. 特定品目に絞った特化型サービス（冷凍・冷蔵品、危険物、電子部品等）
（具体的な品目名： ）
（具体的なサービス内容： ）
2. 特定のエリアに絞った地域密着型サービス（特定地域内での共同配送等）
（具合的なエリアの範囲： ）
（具体的なサービス内容： ）
3. 同業種*との業務提携や協業化（複数拠点での在庫の一元管理や共同配送等）
（提携相手の業種： 提携社数： 社）
（提携によるサービス内容： ）
4. 異業種*との業務提携（ドア・ツー・ドアでの一貫輸送サービス等）
（提携相手の業種： 提携社数： 社）
（提携によるサービス内容： ）
5. 情報システム会社、総合商社等の物流以外の業種との提携
（提携相手の業種： 提携社数： 社）
（提携によるサービス内容： ）
6. 他社との合併・統合による企業規模を拡大しての参入
（統合相手の業種： 提携社数： 社）
（統合によるサービス内容： ）
7. 部分受託（保管・在庫管理のみ／輸配送のみの受託等）からの参入
（当初受託した業務： ）
（現在受託している業務： ）
8. 一括受託した大手企業の傘下に入っでの間接的・下請け的な参入
（受託している業務分野： ）
9. 3PL専門の子会社設立による参入
（出資形態： ）
（企業名： ）
10. その他（具体的に： ）

※同業種とは倉庫業からみた倉庫事業者、利用運送業からみた利用運送事業者を指します。また、異業種とは倉庫業からみた利用運送業やトラック運送事業、利用運送業からみた倉庫業者を指します。

※3PLへの参入形態やパターンについては、同封の「ご記入にあたっての留意事項」ならびに「別紙」に整理しておりますので、ご参照のうえご記入下さい。

問6. 貴社が現在行っているのはどのような業務分野ですか。また、3PLとして受託している（受託を考える）のはどのような業務分野ですか。該当する項目につき、太枠回答欄内に全て○印を付けて下さい。

業務分野	現在行っている業務	3PLとして行う業務*
1. 保管・入出庫		
2. 在庫管理		
3. 輸配送		
4. 輸配送の手配 (国内での輸送手段の手配)		
5. 梱包・包装		
6. 通関		
7. 国際（輸出入）フォワーディング業務 (国内での船積み・輸入配送手配業務等)		
8. 国際複合一貫輸送 (国際輸送手段の手配・組み合わせ)		
9. 書類作成業務		
10. 物流情報管理（貨物追跡・車両管理等）		
11. 流通加工 (仕分け・検品・値札付け・組み立て等)		
12. 受発注処理の代行		
13. 注文充足・在庫補充		
14. 料金支払い・回収の代行や物流コストの分析		
15. その他 (具体的に)		

※ここでいう「3PLとして行う業務」には、貴社が元請として受けた業務を第三者に委託する形で行う場合も含まれます。

問7. 貴社が3PLとして受託する場合の典型的な料金体系はどのようになっていますか。または、どのような料金体系をとる予定ですか。該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

1. 取扱貨物の価格ベース（インボイス価格など）
2. 取扱貨物の重量ベース（トン数）
3. 取扱貨物の容積ベース（m³）
4. コスト+手数料・コンサル料
(輸送、保管等個別の料金の積み上げに手数料・コンサル料を上乗せする方式)
5. その他（具体的に：)

問8. 3PLビジネスに必要な人材についてお伺いします。

(1) 貴社では3PLビジネスの展開にあたって、どのような人材が必要になると考えますか。また、今後確保・育成が求められるのはどのような人材ですか。該当する項目につき、太枠回答欄内に○印を付けて下さい。

人材・能力の種類	3PLの展開にあたり必要となる人材	今後確保・育成が求められる人材
1. 現場レベルで効率的なオペレーションができる人材		
2. 提案営業ができる人材		
3. 物流コストの診断・解析ができる人材		
4. 物流拠点・センターの設計・配置計画ができる人材		
5. 物流拠点・センターの運営・マネジメントができる人材		
6. 情報システムの開発・設計ができる人材		
7. 情報システムの運用ができる人材		
8. 倉庫・運送・フォワーディング（輸出入）など物流分野における幅広い知識・ノウハウを持つ人材		
9. 流通・金融・企業経営など物流以外の分野における幅広い知識・ノウハウを持つ人材		
10. その他 (具体的に)		

(2) 貴社では3PLに必要なスタッフ・人材をどのように揃えていますか。もしくは揃える予定ですか。該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

1. 社外からの経験者のリクルート
2. 社内戦力の育成
3. 社外からの経験者と社内戦力の組み合わせ
4. その他 (具体的に)

(3) 人材の確保・育成のうえで障害・ネックとなるのはどのような事項ですか。該当する番号に全て○印を付けて下さい。

1. 社内での人材育成には時間がかかる
2. 人材育成のプログラム・マニュアルがない
3. 社内での育成のためのコストがかかる
4. 社外の即戦力の確保にコストがかかる
5. 社外に必要な能力を有する人材が見つからない
6. 確保・育成した人材が流出する可能性がある
7. 人材確保の競争が激しい
8. その他 (具体的に)

問9. 3PLビジネスに必要な情報システムについてお伺いします。

(1) 貴社の情報システムは現在どのような機能を有していますか。また、3PLを行うためには、どのような機能が求められると思いますか。該当する項目につき、太枠回答欄内に全て○印を付けて下さい。

機能の種類	現在備えている機能	3PLビジネスに必要な機能
1. 倉庫・拠点内のオペレーションのコントロール機能		
2. 複数拠点の一元管理機能 (貨物の保管や入出庫状況、空きスペース検索等)		
3. ドア・ツー・ドアレベルでの貨物追跡機能		
4. 顧客企業との電子的な情報交換 (顧客からの直接のアクセス)		
5. 同業種*との電子的な情報交換		
6. 異業種*との電子的な情報交換		
7. 物流以外の機能 (代金支払い・回収等決済管理機能、コスト分析機能等)		
8. その他 (具体的に)		

※同業種とは倉庫業からみた倉庫事業者、利用運送業からみた利用運送事業者を指します。また、異業種とは倉庫事業者からみた利用運送事業者やトラック運送事業者、利用運送事業者からみた倉庫事業者を指します。

(2) 貴社では3PLに必要な情報システムをどのように整備していますか。もしくは、どのように整備する予定ですか。該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

1. 自社戦力で整備している (自らソフトを開発している)
2. 外部の情報システム会社に委託している (他社のソフトを購入している)
3. 外部から購入したソフトを自社でカスタマイズして整備している

(3) 情報システム面での障害・ネックとなるのはどのような事項ですか。該当する番号に全て○印を付けて下さい。

1. 情報システム・ソフトの購入価格が高い
2. 情報システム・ソフトの開発コストが高い
3. 情報システム・ソフトの開発ノウハウや人材がない
4. システムの運用・メンテナンスが難しい
5. データのやり取り (EDI) にあたっての方式が標準化されていない
6. 機能が高すぎる / 必要のない機能が多い
7. 顧客ごとにシステムをカスタマイズするのが難しい
8. 顧客側のシステムに合わせざるを得ない
9. 標準的なソフト (必要最低限の機能があり汎用的なソフト) がない
10. その他 (具体的に)

問10. 3PLビジネスに必要な施設・車両の利用状況についてお伺いします。

(1) 貴社では3PLビジネスを行う上での施設・車両の利用形態はどのようになっていますか。またはどのように利用する予定ですか。該当する番号にひとつだけ○印を付けて下さい。

1. あくまで自社の施設（倉庫・拠点）や車両を活用したサービスを行う
2. 自社の施設・車両の利用を基本とするが、自社の施設・車両の利用にはこだわらず、場合によっては他社もしくは顧客の施設・車両も活用する。
3. 極力自社の施設・車両は保有せず、他社もしくは顧客の施設・車両を利用する
4. その他（具体的に)

問10(2)は、問10(1)で「1. あくまで自社の施設（倉庫・拠点）や車両を活用したサービスを行う」または「2. 自社の施設・車両の利用を基本とするが、自社の施設・車両の利用にはこだわらず、場合によっては他社もしくは顧客の施設・車両も活用する。」と回答された事業者の方にお伺いします。

(2) 貴社では3PLサービスの展開にあたり自社の施設・車両をどのようにして整備・拡充しましたか。または整備・拡充していく予定ですか。該当する番号全てに○印を付けて下さい。

1. 自社施設や車両の数を増やすことで営業エリア・ネットワークを拡大する
2. 施設規模（キャパシティ）の拡大や車種の拡充により取扱量を拡大する
3. 施設・車両の機能（温度管理機能・自動化等）の拡充により受託範囲を拡大する
4. 高度情報システム武装することにより倉庫内オペレーションや輸配送のオペレーションを効率化する
5. 情報システムの導入により複数拠点の在庫情報を一元的に管理できるようにする
6. 情報システムの導入によりキャリアとの電子的な情報交換、リアルタイムでの情報共有を可能とする
7. その他（具体的に)

問10(3)は、問10(1)で「2. 自社の施設・車両の利用を基本とするが、自社の施設・車両の利用にはこだわらず、場合によっては他社もしくは顧客の施設・車両も活用する。」または「3. 極力自社の施設は保有せず、他社の施設・車両を利用する」と回答された事業者の方にお伺いします。

(3) 貴社では自社の施設を使わないサービスとして、どのような形のサービスを行っていますか。または行う予定ですか。該当する番号全てに○印を付けて下さい。

1. 顧客（荷主）企業の物流拠点・センターの運営
2. 顧客企業の物流拠点・センターの設計・建設
3. 顧客企業の物流拠点・センターの現場のオペレーションに必要な人材の派遣
4. 輸配送のオペレーションに必要な必要人材（ドライバー）の派遣
5. 顧客企業の物流拠点・センターの運営に必要な人材の派遣
6. 輸配送の管理に必要な人材（運行管理者）の派遣
7. 顧客の物流拠点の配置見直しや改善提案などのコンサルティングサービス
8. 輸配送ルート・パターンの見直しや改善提案などのコンサルティングサービス
9. 物流拠点・センターを他社（不動産業者等）からリースしての運営
10. 物流拠点・センターの運営に必要な情報システムの提供
11. その他（具体的に)

問11. 3PLビジネスの展開にあたって、他社との差別化を図るためのポイントは何だと思えますか。該当する番号に○印を付けて下さい（上位3つまで）。

1. 特定品目についての専門的知識・ノウハウを生かした品目特化型サービス
2. 特定エリアにおける地域密着型サービス
3. サービスメニューの広さ
4. ネットワークの広さ・充実度
5. 国際貨物輸送のノウハウ・ネットワーク（国際分野への進出）
6. 現場での効率的なオペレーションのノウハウ
7. 現場でのオペレーションを踏まえた提案能力
8. 新規投資コストを抑えた提案能力
9. 中小顧客が利用しやすいサービス
10. コスト（料金）の低さ
11. 提案できるコスト削減幅の大きさ
12. 先進的な情報システム
13. 系列・グループのしがらみがない
14. 自社のアセット（資産）の利用にこだわらない
15. その他（具体的に)

問 12. 今後わが国で3PL事業を拡大させていくにあたって、どのような条件整備が必要と思われますか。また、とくに行政からの支援が求められるものはどれですか。該当する項目につき、太枠回答欄内に全て○印を付けて下さい。

項目	3PL事業の拡大に必要な条件整備	とくに行政からの支援が求められる項目
1. 3PLに必要な人材の育成マニュアルやテキストの作成		
2. 大学等教育機関におけるロジスティクスに関する講座の開設		
3. 3PLの関する研修の開催		
4. 3PLに関する研修の修了の証明等による、研修・資格制度の社会的な認知度の向上		
5. 講習・研修等への参加費用の補助		
6. 簡便で汎用性の高い標準ソフトの配布		
7. 情報システムの開発費用に対する補助		
8. 差別化の武器としての情報システムに対する保護の拡充		
9. 標準的な3PL契約の書式の作成や標準約款の制定		
10. 荷主との間で問題が生じた場合の仲裁プロセスの確立		
11. 3PLの効果の客観的な評価機関の設置		
12. その他 (具体的に：)		

問 13. 3PL事業に参入するにあたり、法規制、制度面での問題点がありますか。該当する番号に○印を付けて下さい。また、問題点があれば、具体的にご記入下さい。

1. とくになし
2. あり →下記枠内に具体的にご記入下さい。

例) フォワーダーとして3PLを実施する場合、保管業務を有償で行おうとすると倉庫の登録が必要であるが、都市計画の用途地域等の観点から配送センターは可能でも倉庫となると立地ができずにあきらめた。

問 14. 今後のわが国の荷主企業における外部委託の進展状況についてお伺いします。

(1) 今後、わが国の荷主企業は、物流業務の外部委託をどの程度進めるとお考えですか。

A～Cの各レベルにつき、太枠回答欄内の該当する番号に○印を付けて下さい。

	A. 個別の作業レベル	B. 物流管理のレベル	C. 経営まで踏み込んだレベル
具体例	輸送、保管、梱包など	在庫管理や受発注代行など	改善提案やプランニングなど
→右欄内にご回答下さい			
1. 大幅に外注化が進む	1	1	1
2. やや外注化が進む	2	2	2
3. 現在と変わらない	3	3	3
4. やや内製化が進む	4	4	4
5. 大幅に内製化が進む	5	5	5

問 14 (2) は、問 14 (1) で「4. やや内製化が進む」「5. 大幅に内製化が進む」と回答された事業者の方にお伺いします。

(2) 内製化が進むと考えられる理由は何ですか。該当する番号に全て○印を付けて下さい (上位3つまで)。

1. 荷主企業の側で委託の必要性を感じていない
2. 荷主企業の側は委託した場合のコストが高いと感じている
3. 荷主企業は受託能力のある事業者が少ないとみている
4. 荷主企業は外部委託しても効率化が期待できないとみている
5. 荷主企業が自社のコントロール下に置きたいと考えている
6. 荷主企業が余剰人員対策として内製化を考えている
7. 荷主企業がノウハウ・情報の流出を恐れている
8. その他 (具体的に: _____)

問 15 は、問 4 で「1. すでに実施している」と回答された事業者の方にお伺いします。

問 15. 貴社では 3 P L 業務を受託してみて、どのような問題点・課題がありましたか。該当する番号に○印を付けて下さい（上位 3 つまで）。

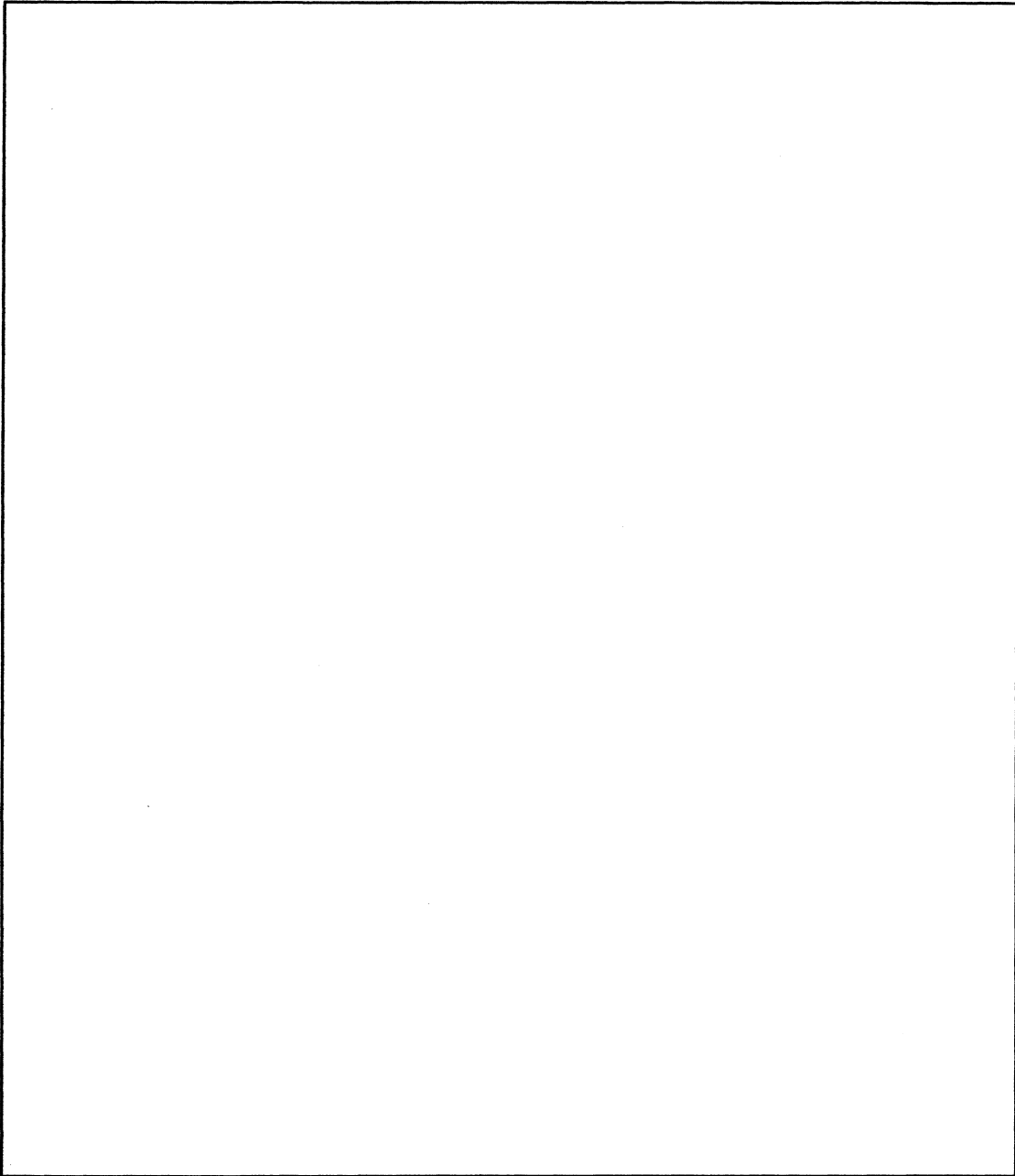
1. 収益性が低い（自社の利益拡大につながらない）
2. 受託に至るまでのコストが高い
3. 受託に至るまでの期間が長い
4. 荷主企業側からの情報開示が不十分である
5. 荷主からの品質管理上のオーダーが厳しい
（具体的に：)
6. 環境関係の国際基準の取得が難しい（I S O の認証取得など）
（具体的に：)
7. 提案・コンサルティングに対する対価がもらえない
8. 契約の取り決め・料金体系の設定が難しい
9. 効果の算定が難しい
10. 情報システム面での対応が難しい
11. その他（具体的に：)

問 16 は、問 4（1）で「4. 現在実施していないし、今後行うつもりはない」と回答された事業者の方にお伺いします。

問 16. 貴社が現在 3 P L を実施しておらず、今後行わない理由は何ですか。該当する番号に○印を付けて下さい（上位 3 つまで）

1. 施設・車両等ハード面でのコスト負担が大きい
2. 情報システム面での投資コスト負担が大きい
3. ネットワークが不足している
4. 収益性が低い（自社の利益拡大にはつながらない）
5. 提案・コンサルティングに対する対価がもらえない
6. 提案・コンサルティングのノウハウ・人材が不足している
7. 荷主からの品質管理上のオーダーが厳しい
（具体的に：)
8. 環境関係の国際基準の取得が難しい（I S O の認証取得など）
（具体的に：)
9. 事業規模が小さいため（大手に比べて信用力が小さい）
10. これ以上の市場成長が見込めない
11. その他（具体的に)

問 17. サードパーティ・ロジスティクス（3PL）に関する貴社のご意見、行政に対する
ご要望等ございましたら、ご自由にご記入下さい。



ご多忙の中調査にご協力いただき、まことにありがとうございました。